

## 2015 年はファシズムとの戦い

### ——理性あるいは力による人間の防衛

【訳者注】アンドレ・ヴルチェックの論文の翻訳紹介は、これが2つ目だが、彼とデイヴィド・ウィルコックが、そのメンタリティも、「帝国」（ウィルコックの「陰謀団」「地球の敵」）の分析も、それへの姿勢も、非常に似ていることに読者は気づかれるかもしれない。悪とは戦わなければならないが、復讐してはならないとウィルコックは言う。ヴルチェックも、彼らは投獄しなければならないが、罰することが第一の目的ではなく、人類の解放が目的であって、そのためなら彼らの要求するものは何でも与えてやろうと言う。これはこの二人の識者が、イルミナティの本当のあり方、彼らが実はいかに不幸な存在であるかを知っているからである。これは2013/2/26掲載の「前イルミナティ、マインドコントロール・プログラマーの告白」を読んでいただければわかる。

聖書のイエスを真似て言うなら、「世界を支配し破壊し、我々を奴隷化しようとする者たちの為に祈れ、彼らはそうするよりほかに生きるすべを持たないのだから」と言わねばならないだろう。もちろん、祈りは物理的力を持つという、ウィルコックの力説する理論の上に立っての話である。（本文中の強調はすべて訳者によるもの。）

By Andre Vltcheck

January 03, 2015 (Information Clearing House)

あと一步で、あと一つの狂気の爆発で、人類が戦ってきたすべて、人類が何年も、何世紀も、何千年も、努力し目指してきたすべてが、途方もない一連の暴発によって消滅するかもしれない。我々の惑星は粉碎されるか、または毒されて永遠に住めなくなるかもしれない。

なんと大げさな？ 全然そんなことはない。この「帝国」の跡に残した記録を見よ——戦争また戦争、侵略また侵略、それに伴う何百もの不安定化された国家、殺された指導者、転覆された政府。

この筋書きは、ガブリエル・ガルシア・マルケスの有名な中篇小説『予言された死の年代記』に似ているかもしれない。我々はやがて起こるであろうことを予見できる。我々は極めて近未来に、大きな規模で、大殺戮が起る可能性があるかと警告しているのだが、我々の警告は驚きを与えはするが、ほとんど誰をも行動に駆り立てはしない。しかしこれもやがて変わるだ

ろう。

いま世界を取り返しのつかない災難に追い込もうとしている者たちは、明瞭に同定することができる——彼らは市場根本主義者（すべてがカネで買えると信ずる者）、自分たちの教義の優秀性を信じ、西洋人とその文化が、自分たちに倣い従属する多数の者と共に、“選ばれている”と信ずる者たち、何千という企業トップ、狂った“軍事戦略家”などである。

もし彼らが、支配力を失うか、世界を破壊するか、どちらかを選ぶように言われたら、彼らは破壊する方を選ぶだろう。そして彼らは何十億という人命を終わらせることに、何の後悔も感じないだろう。なぜなら彼らの“論理”と“道徳”は、ある種の奇怪で霧に包まれた“神聖な自己正義”的教義に基づいており、また長い暗黒の歴史を通じて、彼らは、自分たちの狂気を正当化するために考案された、無数の理屈を教え込んできたからである。

彼らが我々残りの者たちを生き残らせ、生存させようとする唯一の環境は、我々が無条件に彼らの奴隷——単に従僕でなく奴隷——になったときであろう。

彼らは我々を支配しようとするが、同時に、彼らは怖れられ、感嘆され、敬愛されることを求める。しかり、支配と服従は全面的なものでなければならない。そして我々が示すことを期待される屈従と恥辱の感情は、絶対的で、“純粹”で、無条件でなければならない。

そう、あなたの推理は当たっている。それは過去のある場所に淵源をもつ——すなわち教会の“異端訊問”の時代に。

もしあえて我々が抵抗すれば、彼らは我々を核兵器で滅ぼし、我々全員を全滅させることができる——たとえ彼らと彼らの家族もまた同時にその火で消滅しようとも。

その理由は、これらの人々が真の過激派、狂信者であり、絶対的にすべてを要求し、恐るべきプロパガンダと監視の機関、安全保障設備をもつだけでなく、核兵器をも持つ狂信者だからである。

\*\*\*

この体制とその支配者たちが、ほとんど地球惑星全体を植民地化し、奴隷化したあとでは、彼らの手に落ちた場所には、良識や節度などというものはほとんど残らない——かつて純粹だったすべて、自然で人間的なすべては、唾を吐きかけられ、捻じ曲げられ、見くびられ、商品化されるからである。

世界中の人々が、連帯、美、愛、正義、平等、兄弟愛、また永遠に恐怖がないことを、理想とし欲求した。

知識には、より良い社会を作るための知的道具を人々に与える、というただ一つの目的があると考えられていた。

今、子供たちや大人は、会社で使える従順な蟻、半知識人になるために学校へ行く。訓練と資格証明書が多いほど、彼らの脳は、紋切り型で条件づけられたものになる。

ほとんどの国で、医者によく儲かる仕事でしかなく、ほとんどすべての製薬会社は熱帯雨林を乱開発し、治療でなく特許を取ることに熱中している。

偉大な科学は、有力な企業の実験室や、私立大学や研究センターの扉の後ろに閉じ込められたのち、死んでしまった。最上の科学的頭脳は軍事目的か、人類の進歩の為でなく、市場用の“製品”開発の為に働いている。

芸術は、かつて人間の思想と進歩の最前線にあったものだが、これが娯楽となり、スーパーマーケットやショッピングモールのそれのように、魂も脳もない商品になってしまった。芸術家は、人々を断崖へつれていって、より高い何かを目指させるのでなく、安っぽいエンターテイナーに墮ちてしまった。

\*\*\*

西洋の「帝国」はあらゆるものをコントロールしようとする。それは非キリスト教、とくにイスラム教を、過激派であるかのように見せることに成功した——最初は、イギリスがワッハブ派を支援することによって、次に、西洋がアフガニスタンにムジャヒディーンを作ることによって、そしてこれが次には、アルカーイダを生み、最近では NATO が ISIS をつくり出すことによって。

「帝国」は世界をコントロールすることに興味があるだけで、その安寧や存続には興味がない。それは現実に、人類やこの惑星の生き残りに、明らかな無関心を示している。

私は、国全体が沈み、地球温暖化の為に住めなくなっている例を見ている——Kiribati、Tuvalu、マーシャル群島など。また、スマトラやボルネオのように、巨大な島がすっかり木を伐採され、黒い有毒の川に覆われ、完全に破壊された例を見ている。

私は想像もできない恐ろしいものを見ている——“市場暴力”に完全に委ねられた、ジャカルタ、ナイロビ、Tegucigalpa のような都市だ。

私はニューヨークで、いつか病気になることを恐れている人々と話した。病気そのものでなく、医療費が払えなくなることを恐れているのだ。また、恐ろしい学費ローンの重みに押しつぶされている若者を見た。私は「自分の人生をどうしたらいいのかわからない」と言う大量の人々と話した——彼らは、生きていく理由も意味も完全に見失っている。

私は何ダースもの戦場、爆撃で完全に壊された都市や村を見た。何百万という避難民を見た。すべてこれらは、「帝国」がこの怪物のような、自己奉仕、自己利益のシステムを維持するためである。それは本当は、誰も望まず、過去にも誰も望んでいなかったシステムだ。

そして現在、あと一歩で、それはロシア、中国、そしておそらくイランの、紛争の引き金を引くだろう…。

\*\*\*

見聞を重ねるごとに、私はますます思う——世界を支配しているこれら狂人たちと、彼らの家臣・従僕である“依存国家”を武装解除するには、どうしたらよいかを考えなければならないと。

これは完全な狂気の沙汰である！ 人類は現在こんなところにいるべきではない。彼らは人類を誘拐し、進歩を阻み、夢を殺し、大陸全体を、暗く、冷笑的で、憂鬱なニヒリズムの毛布で覆ってしまった。

美しい音楽や詩を作る代わりに、みんなの公園や、環境を考えた都市を作る代わりに、我々は都市の中心を車で窒息させている。我々は天然資源の利用をめぐる何百万という人々を殺している。我々は過剰生産と過剰消費のために生きているが、一方で何億という人々が貧民街で朽ち果てている。我々はまともな政治指導者を失脚させ、ウソをつくことを拒否するジャーナリストを殺している。我々は互いを監視し、互いを騙し、拷問し、脅迫し、殺し合い、憎み合っている。

ほとんどの人々が、人間は本来、楽観的で、分かち合い、愛し合う動物であることを、忘れさせられている。ほとんどの人々が、より良い社会を作ることが、極端に個人主義的な悪夢の中に生きるよりも、はるかに栄光に満ち面白いことを、忘れさせられるか、または知らさ

れないでいる。利益のためでなく、“俺が先だ”という主義でなく、人類のために生きることが、充足感を与え、生きることの意味を現実に与えてくれるのだ。

\*\*\*

我々のいわゆる“リーダー”、政治的、宗教的、経済/実業的リーダーは、心のあり方を決める人たちだ。

どのように彼らをそこへ連れてくるかは、間違いなく、きわめてデリケートな作戦を要する。

私は提案する——彼らに約束しよう、彼らに与えよう、彼らが望む、すべての想像される限りのゴールデン・パラシュート（特恵的退任手当）を。何でも——彼らを退かせ、権力から離れてもらうためなら。

彼らはもちろん、投獄されねばならない——詐欺罪からジェノサイドまでの罪状によって。しかし彼らを罰するのは私の優先目的ではない——少なくとも今のところは。

優先させねばならないのは、人類の生き残りである——膨大な数の人々が、奴隷としてでなく、自由人として生き残るために。

これらの狂人たちは、自分の作った世界にしか生きられないことを知っている。彼らはやさしさを持たず、創造する能力を持たない。彼らのシステムは、騙し、脅し、そして恐怖を与えることによるのみ栄えることができる。

これが、彼らと彼らのシステムが決して、思い通りに、また平和的に、いかない理由である。

生きることは、彼らにとってはビジネスである。彼らは人類のために存在しているのではない。彼らは奴隷の主人として、異端質問者として存在している。（奴隷売買は最初から彼らの仕事でもあった。）彼らはまた、彼らの恐ろしいビジネス・ゲームのために、取引と市場のために、存在している。

我々の世界を、彼らから買い戻す方法を見つけようではないか！

草原や川を、海や熱帯林を、古代都市を、動物たちを、木や花々を、彼らから買い戻す方策を考えようではないか。

人類への敬意を買い戻す方法を見つけよう。彼らからそれを買い戻したら、決して再びそれを売らないようにしよう。誰にも売らないように——いかに彼が美しく笛を吹こうとも！

たとえ代価を払っても、論理と理性を取り戻そう。愛を愛として再び生き返らせよう。苦痛を苦痛として受け止めよう。正義をまさしく正義として生き返らせよう！

**どんな代価を払ってもよい——彼らがこの惑星を手放すなら。**

何千年にもわたって、彼らの十字軍遠征、彼らの植民地主義、彼らの略奪は、我々の世界を恐怖と拷問と煙と、グロテスクな道德のパロディの世界へと変えてしまった。

そしてこの狂気と恐怖のすべてが行われた後で、一部の者たちはいまだにこの体制を守り、この根本主義的キリスト教、帝国主義、資本主義のモロトフ・カクテルを、真剣に受け止めている！

もうそれを、真剣に受け止めるのはやめようではないか。それは恐怖のジョーク、悪夢、人間の本質そのものへの侮辱にすぎない。

それを笑ってやろう、それを見て反吐を吐いてやろう。それとも私が提案したように、今直ちに取引をしよう——たとえ我々がある期間、完全に破産するとしても。

しかしどんなことがあっても、我々はもはや、それを真剣に取ってはならない。そして、こういう生き方をこれ以上続けてはならない！

この体制は、人類の大きな野望のすべてを曲げてしまった。それは進歩を脱線させ、希望を破壊した。それはやさしさと連帯を絞め殺した。それは人類の大多数から財産を奪った上で、「貧困は慈善によって軽減すべきだ」などと提言した。そしてそれは何億もの人々、おそらく何十億の人々を殺した。

そういうものは侮辱してやろう、笑ってやろう。カネが欲しければ放り投げてやろう。

それが退場を拒むなら——では戦おう！

\*\*\*

我々を取り巻いているすべてのニヒリズムを見よ！

「帝国」は何ひとつ美しい歌をもたない——国家を建設する歌をもたない。鳥肌を生じさせるような詩をもたない。それは、危険を冒して立ち上がることのできるリーダー、バルコニーから群衆に向かい、我々すべてのために偉大な世界を建設する情熱を人々と分かち合う指導者をもたない。

それは忠誠心をもたない、確かさを与えることができない。それが生み出す“愛”は利益とビジネスの方を向いている。それは長持ちせず、当てにすることはできない。

「帝国」はもはや戦うことすらできない。それは病弱で臆病だからだ。それは確かに何百万の人々を殺すが、ボタンを押すことによって、無人機を飛ばすことによって、代理政府、彼らの植民地を使うことによって殺すのである。

それはこの「帝国」の理想が低いからであり、その宗教的教義が気力を奪うものだからであり、資本主義が浅はかで、ネオ植民地主義が不道徳だからである！

\*\*\*

もし「帝国」が我々を殺すとしたら、我々は犬死をすることになる——「帝国」とその狂信者が栄えるために！

だから死なないようにしよう！ 命がけで戦おう——いま我々の首を絞めているファシズムに対して。

団結して叫ぼうではないか——「我々はこの地球を取り戻すぞ！」と。

「我々はやさしさと良識と愛を取り戻すぞ！」

しかしこのような呼号が、抗議運動のスローガンのようになってはならない。抗議運動は効き目がない。

我々は戦わなければ、何も変えられない。これが、我々の旗に書かれた要求でなければならない、我々の闘いの声でなければならない！

ラテンアメリカやアフリカ、アジアやオセアニア、中東や、「帝国」の中心部のヨーロッパや北米でさえ、人々は、絶えず恐怖や不合理な罪の意識をもつ世界から解放されて生きたい

と思っている。彼らは、病院が病人を治療し、他の人々が病気にならないようにしてくれることを願っている。学校が本当に教育をし、住宅が雨風を防いでくれ、都市や村が居住者に質の高い生活を与えてくれることを願っている。彼らは確かなものを望んでいる。

人々は人生に再び意味が生ずること、美と希望と夢が生まれることを望んでいる。彼らは星を見つめ、夢を見たいと思っている。時には、彼らは、もはやそれを明瞭に言えなくさえなっている。しかし彼らに話しかけてみれば、それがほとんどの人々の本当の思いであることがわかる。

「百里の道も一歩から」と 2,500 年ほど前に、偉大な中国の哲学者、老子は言った。

しかし、それを本当の第一歩とするためには、まず立ち上がらなくてはならない。

そして立ち上がるためには、人は生きていて、決断しなければならない。

確かに、時には、立ち上がるより、歩き出すより、頑張るより、ひざまずくか伏せる方が楽な場合がある。時には、自分の夢や愛や、本質的原理に忠実であるより、裏切った方が楽な場合がある。

しかし人が本当に生きているのは、まっすぐに立っているとき、前進してよりよい世界を目指すとき、約束や誓いを守るときだけである。

「帝国」は多くの者たちを挫き、買収し、あるいは彼らを脅して屈服させた。しかし他の者たちは立ち上がっている。すべての者たちが売り物ではなく、すべての者が奴隷ではない。

第一歩があらゆる所で踏み出された。何千里の道がやがて踏破されるだろう。

ファシズムへの戦いが始まる。人類は防衛されねばならない！ 理性か力によって、この体制は人類の利益に屈しなければならなくなるだろう。そのものが、あの最後の、最も破壊的な一步を踏むことは許されないだろう！

(筆者 Andre Vltcheck の紹介は、「2015 年に最終決戦、“帝国”は崩壊する——そのために戦争が必要になる」をご覧ください。)